



「森と海の自然科・第32回山歩きを楽しむ会」

三上山を眺めながら登る菩提寺山ハイクの記録

日時 2026年3月17日(火) **天候** 暖かく風もない絶好のハイキング日和でした。
集合 JR野洲駅9時50分 10時発のバスに乗車しみどりの村東口で下車する **参加者** 6名
行程 野洲駅→みどりの村東口バス停・・・住宅地・・・菩提寺町づくりセンター(トイレ・地図)・・・登山口・・・重ね石・・・東展望台・・・西展望台・・・菩提寺山山頂・・・龍王社(昼食)・・・歴史の小径登山道・・・寺屋敷古墳・・・閻魔像・・・三体地藏石造多宝塔・・・西應寺(トイレ)・・・北山台西口バス停→野洲駅(解散)

行程距離 約5km **歩行時間** 3時間

地図 省 略

概要 本日のハイキングは2025年度最後の「山歩きを楽しむ会」でした。参加人数は6名と少し少なかったですが、桜の開花もみられるかもしれないような春を思わせるような陽気な気候でした。

JR野洲駅からバスに揺られて30分ほどのみどりの村東口バス停で下車し、菩提寺まちづくりセンターでトイレ休憩と本日登る菩提寺山ハイキングマップを頂きました。裏登山道を歩き山頂を目指します。途中でキブシやアオモジの花が咲いていました。山頂までは1時間足らずで登ることができました。その途中に「重ね岩」があったり「東展望台」「西展望台」と絶好の近江の景観を望めるところがありました。

センターで頂いた菩提寺山案内(地図付き)によると菩提寺山は近年まで地元では「寺山」と呼ばれ、小字名は童王山です。天平3年(731年)に良弁僧正が開基した「少菩提寺」が、地名の由来だそうです。寺は伽藍が垣がり栄えていましたが元亀元年(1570年)に、織田信長軍と戦った佐々木六角軍の敗残兵によって焼かれて、再建することもなく廃寺となった。寺の跡は埋もれていますが、廃少菩提寺として国の史跡に指定されています。

菩提寺山の地質は、北東部は花崗岩、南西部はチャートできています。石造文化財(石造多宝塔、三体地藏、石造閻魔像等々)はこの周辺の花崗岩を使ってできています。



トイレと地図を入手する



山頂目指して進む



キブシが咲いています

林道が終わり本格的な山道となる所に着き、服の調整をしました。ここまで歩いてだけで汗が流れます。本当に今日は暑いです。服の調整と休憩をとった後、出発しました。道は急坂となりはじめ大きな岩がごろごろとでてきました。



ここから山道となります



「重ね岩」でしょか



東展望台で記念写真を

山頂には12時前に着きました。山頂は展望もよくないので記念写真を撮った後、早々に下り何峰の展望の良いところまで行き、そこで昼食を摂ることにしました。真下には琵琶湖に注ぐ野洲川や頭首工（河川などから用水路へ必要な感崖水を取り入れる施設）が見えていました。最近ではあまり行きませんが、森海では河川の調査でこの頭首工をよく見かけたものでした。



西展望台からの三上山



菩提寺山山頂（353m）で記念写真

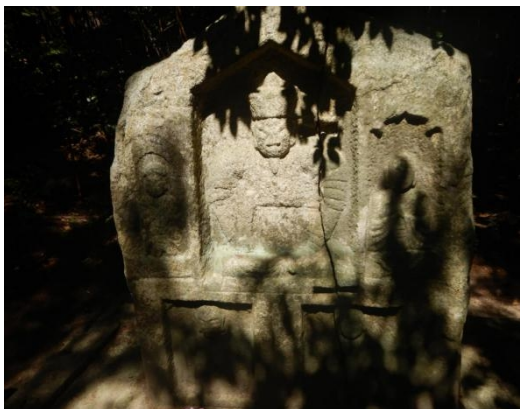


真下に野洲川



歴史の小径を下る

歴史の小径はコンダに覆われて道が見えませんが、しかも結構厳しい下りで下山するのに大変でした。下山したところには閻魔大王像や三体地藏、多宝塔等の石造物がありこの道が歴史の小径と呼ばれることが理解できました。



石造閻魔大王像

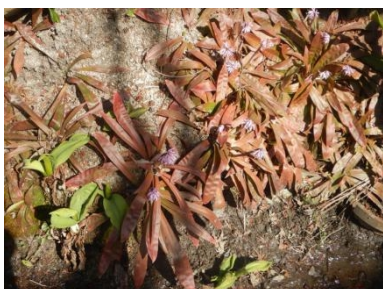


石造三体地藏



石造多宝塔

下山は思ったより早く13時頃にできました。北山台西口バス停発13時34分のバスに乗車できそうなので、少し急ぎ足でトイレのある西應寺に行きました。



寺の境内でショウジョウバカマの花を見つけました。本日のハイクは日が高いうちに終わりました。

← ショウジョウバカマの花



13時34分のバスに間にあった